

「氣多はふりの家」  
 氣多の宮  
 蔀にひびく 海の音。  
 耳をすませば、  
 聴くべかりけり  
 (「春のことばれ」)  
 釈 遥空

国学院大学 令和4年9月20日(火) 定期号(毎月20日発行) 1部20円  
 [発行]国学院大学 [編集]総合企画部広報課 〒150-8440 東京都渋谷区東四丁目 [電話]03(5466)0130 [FAX]03(5466)0528

祭儀 ■ 月次祭 10月1日(土) 午前10時 神殿



## メジャーリーグから学ぶ指導者の資質

### 院友・産経新聞社サンケイスポーツ営業局長 田代学さんに聞く

優れた指導者の条件とは何か。スポーツの世界では優れた指導者によって選手やチームに変革が起き、強豪となるケースも多い。

歴代の名監督を取材してきた。日本の記者では初めて全米野球記者協会(BBWA)の理事も務めた。

「メジャー(大リーグ)の監督は高いマネジメント力が求められる。国籍や文化など多様なバックグラウンドがある選手たちで構成されるチームをまとめ上げる手腕も必要になる」。こう語るのは国学院大学の卒業生(院友)で、サンケイスポーツ営業局長の田代学さん(平3卒・99期法)だ。田代さんは平成13(2001)年から13年間、米大リーグの担当キャップとして

田代さんは記者になり大リーグを取材したいという夢を持ち、平成3(1991)年にサンケイスポーツに入社。東京本社でプロ野球担当を務めた後に、米留学を経て大リーグ担当キャップになった。

田代さんが大リーグ取材で驚いたのが、選手と監督の距離の近さだ。当時の日本の球界では選手は監督に質問できない雰囲気だった。だが、メジャーでは監督室のドアが開いていれば入

中面では田代さんに日米指導者の役割の違い、ビジネスの場でも共通する指導者像について詳しく聞いた。

4・5面に関連記事



## 令和4年度オープンキャンパス開催

### 3日間で1万人が来場

国学院大学は渋谷・たまプラーザ両キャンパスで8月6、7日と27日にオープンキャンパスを開催し、約1万人の受験生らが参加した。今年度は3日間とも事前予約制とし、多くの企画が予約締切日前に満席となった。当日は、在学生と教職員による相談ブースや学内施設を巡るキャンパスツアーなどが行われた。たまプラーザキャンパスでは4月に開設した観光まちづくり学部の説明会も行われ、27日は梅川智也同学部教授が文理融合を掲げる教育内容や入試制度を説明し、受験生が熱心にメモを取る様子が見受けられた。

各学部学科の概要や入試制度の説明、模擬授業などはオンラインコンテンツとして動画が用意され、本学ホームページでいつでも閲覧できるよう公開されている。

## 「令和四年七月十四日から同月二十日までの間の豪雨による災害」などで被災された皆さまへ

「令和四年七月十四日から同月二十日までの間の豪雨による災害」などにより被災された皆さまに、衷心よりお見舞い申し上げます。

本学学生のご家族をはじめ、卒業生、

関係者の皆さま、罹災者の方々の生活が一日も早く平常に復するよう、本学としてもできる限りの支援を行う所存です。

令和4年9月20日 国学院大学

## みはるかすもの

9月1日は「防災の日」。小学校などでこの日に避難訓練を行った経験がある方も多いのではないかと。この防災に関する啓発日は、大正12(1923)年9月1日に発生した関東大震災にちなみ、昭和35年に制定された▼同震災発生から99年。毎年このように日本は大規模災害に襲われている。規模、被害が甚大で国が復興にあたり特別の財政援助や助成を行う「激甚災害」への指定は、東日本大震災から数えても20件を超える。今夏に各地を襲った大雨による災害も対象とされた▼「線状降水帯」などの言

葉も耳にするようになった。気象衛星やレーダーの性能が向上し、観測精度は上がったが、いつどこで発生するか予測は困難だという▼地震や噴火などの災害も同様だ。技術の進歩や研究者らによる不断の努力がなされているが、未だ人の手で自然を完全に予測することはできない。災害大国日本にあつては、私たち一人一人が普段から災害に備えることが重要になる▼同時に、災害時にふれる情報にも心構えが必要だ。関東大震災では、広がったデマにより多くの人が犠牲になった。東日本大震災や平成28年の熊本地震でもさまざまな虚言が流布し、情報に接した人の多くが信じたという▼誰もがSNSで情報を気軽に発信できる時代になった今こそ、過去の教訓から学び、備える機会を大事にしたい。

### 学校法人国学院大学と横浜ビー・コルセアーズ 連携協定を締結

学校法人国学院大学 株式会社横浜ビー・コルセアーズ



学校法人国学院大学（理事長：佐柳正三＝写真左）と株式会社横浜ビー・コルセアーズ（代表取締役：白井英介＝同右）は7月20日、人材育成や地域への社会貢献などを目的とした連携、協力を行うことに合意し、協定を締結した。同社は国内男子プロバスケットボールリーグ（B.LEAGUE）に所属する横浜ビー・コルセアーズを運営している。

この協定は、横浜市を中心とした地域での教育支援に関する一層の充実を図るとともに、その成果の普及や促進を通じた社会貢献に寄与することが目的。今後は大学施設を利用した運動指導やスポーツ環境の提供などをはじめ、さまざまな分野での連携、協力が進められる予定。

### 観光まちづくり学部 鳥羽市と連携協定を締結

鳥羽市と国学院大学との相互連携及び協定に関する基本協定締結式



国学院大学（学長：針本正行＝写真右）と三重県鳥羽市（市長：中村欣一郎＝同左）は7月19日、本学が持つ知的財産や人材、技能などと鳥羽市の観光まちづくりに関する知識や経験を生かし相互に連携、協力することに合意し、基本協定を締結した。

今後は観光まちづくり分野での連携、協力を通じ、同市の地域活性化や経済、産業の振興を図り、地域社会の発展や人材育成などを目指し取り組みが進められる予定。

### 萬葉の花の会 3年ぶり開催 日本最古の和歌集を学ぶ



日本最古の和歌集である『萬葉集』を通じて日本の文化や自然への理解を深める「萬葉の花の会」が9月5日、たまプラーザキャンパスで開催され、100人超が参加した。

28回目となる今回は、同会会長を務める辰巳正明名誉教授、上野誠文学部教授（特別専任）、渡邊卓研究開発推進機構准教授の3人が講演を行い、萬葉歌の解釈や萬葉集にちなんだ観光などの楽しみ方について講演し、参加者は熱心に耳を傾けていた＝写真。

## 観光まちづくり学部 基礎ゼミ始まる 地域に飛び出し 特色や課題を学ぶ



ボランティアガイドの説明に聞き入る学生たち

観光まちづくり学部では、地域の特色や課題を把握し分析する「基礎ゼミナール（基礎ゼミ）A」が始まった。19人の学部教員が担当する基礎ゼミAでは、学内での授業のほか、学外実習や自主的な現地調査を交えて授業が進められる。授業のテーマや実施時期、訪問先は担当教員によって異なり、都内やたまプラーザキャンパス周辺をはじめ、岩手県陸前高田市や神奈川県鎌倉市などでも宿泊や日帰りの学外実習が行われる。

「栃木市『栃木宿』の歴史」がテーマのクラス（担当：石本東生教授）では夏期休暇期間を活用し8月11、12日に、約30人の学生が2グループに分かれて、重要伝統的建造物群保存地区（重伝建地区）に選定されている市内の嘉石衛門町などを視察した。視察を前に行われた事前学習で石本教授は、重伝建地区の制度やまち並みの保全、活用について国内や海外の事例を示して解説。今回の学習で「文化的な価値がある蔵・建物をどのように活用しているのか」がポイントとし「魅力だけでなく課題も一人の観光者として見てもらえれば」と話した。

江戸時代に宿場町や舟運で栄えた栃木市内には当時を彷彿とさせる景観が残っている。学生は巴波川沿いの蔵や歴史の建物が建ち並ぶ地域で資料館などを見学した。ボランティアガイドから、地域の歴史に加えて、景観保全に関する制度や財政の実状などについて説明を受けた。

重伝建地区の嘉石衛門町では地元でまちづくりを進める遠藤翼さんや地域の商店主らから見世蔵、木造店舗、土蔵の利活用や地域が抱える課題などを聞き取った。

視察を終えた学生からは「観光するだけではわからないことを聞いて貴重な機会だった」「蔵の活用方法がいろいろあって、自身でもアイデアが湧いた」などの感想が聞かれた。

視察を終えた学生は、9月にたまプラーザキャンパスで事後学習を行う予定。

### 学問ノ道 第45回

## 国文学者・佐藤謙三の関東大震災 — 少年時代の記録から —

大正12（1923）年9月1日午前11時58分、神奈川県を震源とするマグニチュード7.9の地震が発生、南関東一帯は激しい揺れに襲われたほか、東京市の東部や横浜市は大火災によって焼け野原となった。現在、「関東大震災」と呼ばれるこの災害では、推計で約10万5千人が犠牲になるなど、日本史上、最も大きな被害を出した。後に国文学者として大成し、本学の学長を務める佐藤謙三も神奈川県横浜市保土ヶ谷区（現・横浜市保土ヶ谷区）の自宅で被災している。謙三はその時の様子を日記や体験記に認めており、被災地となった横浜の状況も窺える。

当時、12歳で県立横浜第二中学校（現・横浜翠嵐高等学校）の1年生だった謙三は、弟・敬介とともに地震に遭遇、体験記に「この日は、僕の一生忘れられない日だ。古今未だと言ってもよい大地震はこの日に起ったのだ」とその衝撃を記している。強い揺れを感じた謙三が屋外に逃れると、周辺の家屋は倒壊し、濛々と砂煙を上げていた。その後、弟とともに近くの野原に避難した謙三は、そこから北東方面に位置する横浜駅周辺で黒煙が入道雲のように上がっていくのを目撃、「地震に火事はつきものだとふがくも早く大きな火事になるものかと天災の恐ろしい事を身にしみておぼえた」と述べている。昼食時だったこともあり、横浜では同時多発的な火災が発生、強風に煽られて急速に燃え広がっていった。安政6（1859）年の開港以来、発展を続けてきた横浜の街は猛火に焼き払われていく。

午後2時頃、伊勢佐木町に行っていた母・としが帰宅、同11時頃には父・謙二郎も東京の大井町から徒歩で帰宅した。この間、東の夜空は炎に照らされて真っ赤になっており、保土ヶ谷でも各所で火災が発生、また、余震も続き、人々は不安を募らせていた。さらに翌2日には、さまざまな流言飛語が広まり、真っ暗になる夜にかけて人々の混乱は拡大していった。謙三はその様子子を「何だか戦争のようなさわぎだ」と記録しており、鉄の棒を片手に一夜を明かしたという。以後、被災地の混乱は時間の経過とともに鎮静化、謙三も7日の日記に「だんだん、世の中がおちついてきたが、夜の番がまだ大変だ」と記している。



関東大震災を記した『佐藤謙三日記』1923(大正12)年(脇屋まり氏蔵)

横浜都市発展記念館調査研究員・文学部史料兼任講師 吉田律人

# 人間開発学部 オンラインフォーラム 社会に開かれた教育課程へ 理解深める

## 学部4年生へ就職支援 外部企業と協力し求人フェア



就職活動中の学部4年生に向けた第1回「求人フェア」が8月3日、渋谷キャンパスで開催され約90人の学生が参加した。

当日は、ハローワークや大手人材紹介企業の協力を受け、求人情報コーナーや相談ブースを開設した。学生たちは、キャリアサポート課の職員からアドバイスを受けつつ求人情報を確認＝**写真**。興味を持った企業の特徴や事業内容などの詳細を確認しながら自身の就職活動について相談ブースでアドバイスを受け、真剣な面持ちで耳を傾けていた。

キャリアサポート課では11月にも4年生に向け求人フェアやWEBでの合同企業説明会などを開催する予定。同課の担当者は「今後はスピード重視の採用になる。就活継続中の4年生は相談に来て欲しい」と話した。

## 渋谷区4大学 合同で職員研修を実施



渋谷区に所在する国学院大学、青山学院大学、実践女子大学、聖心女子大学の4大学が8月25日、合同でスタッフ・デベロップメント(SD)研修を行い約30人が参加した。

この研修は、連携・協力に関する包括協定を結ぶ4大学が各大学職員の研さんと交流を目的に平成29年から実施。今回は学生支援や研究支援などの実務担当職員が集い、講演での知識習得や担当業務別のグループワーク、情報共有が行われた＝**写真**。

## ホームカミングデー 第1弾をオンライン開催



本学卒業生(院友)やその家族らが学び舎に戻るイベント「ホームカミングデー」の今年度第1弾企画が7月30日、オンラインで開催された。

当日は、職員3人が渋谷駅からキャンパスまで明治通り沿いを散策する様子を配信＝**写真**。学生時代に利用した飲食店や変化した街並みなどを当時のエピソードを交えつつ紹介した。視聴していた院友からは在学時を懐かしむコメントなどが寄せられた。

開会のあいさつを述べる成田学部長



「本学部は子どもたちだけではなく、教員や周囲の方の可能性と能力の発揮にも取り組んでいる。本年は学校と社会の繋がりがきるとし、「資質・能力をいかに明確に規定するかが重要なポイントだ。明確に規定することで、資質・能力の育成に向け社会と具体的に共有、連携し、実現へ取り組みむことが可能になる」と解説した。さらに各学校で取り組みが進む「主体的・対話的で深い学び」についても解説。一つ一つの知識を粒に例え、「生徒自身が主体的に課題を解決し、知識という粒を得る。得た粒をディスカッションなど他者との対話を通じ活用・発揮することで、個別の粒(知識)同士が繋がり、ネットワーク化されていく」とし、繋がりが

精緻化された知識はさまざまな状況に活用できると語った。そして、「主体的・対話的で深い学び」にはタブレット端末やICT、オンラインの活用が学びに新たな可能性を生むと語り、学びの中核となる学校で、教師の授業力とカリキュラム編成力が発揮され、豊かな学びが展開されることを願うと述べ講演を締めくくった。

その後は、国語や音楽・地域連携、道徳、特別支援教育などの8分科会が開催された。全国各地での先進的な事例紹介などを交えつつ、各教科での「開かれた教育課程」の在り方について参加者は実践的な教育への学びを深めた。

国学院大学人間開発学部教育実践総合センターが主催する第13回夏季教育講座「国学院大学教育実践フォーラム」が7月31日、オンライン形式で開催され、全国各地から600人を超える教育関係者が参加した。今回は3年間の継続テーマである「新しい教育課程の基準とこれからの教育・保育」の最終年であり、「社会に開かれた教育課程」を掲げた。

「共有」「連携」と3つのキーワードを挙げた。社会で活用できる資質・能力を明確化することで、社会と共有することができるとし、「資質・能力をいかに明確に規定するかが重要なポイントだ。明確に規定することで、資質・能力の育成に向け社会と具体的に共有、連携し、実現へ取り組みむことが可能になる」と解説した。さらに各学校で取り組みが進む「主体的・対話的で深い学び」についても解説。一つ一つの知識を粒に例え、「生徒自身が主体的に課題を解決し、知識という粒を得る。得た粒をディスカッションなど他者との対話を通じ活用・発揮することで、個別の粒(知識)同士が繋がり、ネットワーク化されていく」とし、繋がりが



知識同士が繋がる重要性を訴えた田村教授

# 環境問題テーマに招聘研究員が講演 人文学の重要性も訴える

国学院大学国際招聘研究員として来日したルエグ・ヨナス氏による学部生対象の講演会が7月14日、渋谷キャンパスで開催された。テーマは「地球温暖化は過去の歴史を変える力があるのか?」で、研究協力者の杉山里枝経済学部教授をはじめ学生、教職員ら約50人が参加した。

海洋環境歴史学が専門のルエグ氏は、「時間の経過とともに、環境問題が人類の行動の結果なら、私たちは何を考えるべきだろうか」と学生に語りかけた。また、1950年代からの世界的な高度経済成長にも触れ、「地球環境が劇的に変化し、化石燃料の使用などで堆積物も変化しはじめた。現在は、新たな地質学の区分『人新世』が提案されている。生物多様性への影響も大きく、人類の手で地球史上6回目の大量絶滅が始まったと危惧する声も多い」と研究者間でも危機感が高まっている現状を紹介した。

その上で、環境問題について「地球規模の出来事だが、影響を及ぼす経済活動の状況は国ごとで異なる。異常気象などに起因する紛争や貧困、災害などのリスクも全人類が平等に負っている訳ではない」と経済的、倫理的な側面を語った。そして、「環境問題には倫理や政治、経済的な問題なども複雑に絡む。数値で事象を捉える自然科学だけでは解決できず、人間を学問対象としてきた人文学の存在は必要不可欠だ。これからは学際的な分野を超えた協力がますます重要になってくる」と人文学の重要性を訴え、大学での学びを大切にして欲しいと学生たちにエールを贈った。



後半は「自然災害からの都市の復興」をテーマに、復興策を検討するグループワークが行われた。ルエグ氏は学生と交流しながら各グループにアドバイスを送り、「地球環境の変化はもはやスーパーコンピューターでも予測不能だ。だからこそ、人類の発展と環境問題を考えていくことが大切だ」と締めくくった。最後に、9月からチューリッヒ大学(スイス)で研究者としてのキャリアをスタートするルエグ氏に、会場からは大きな拍手が贈られた。

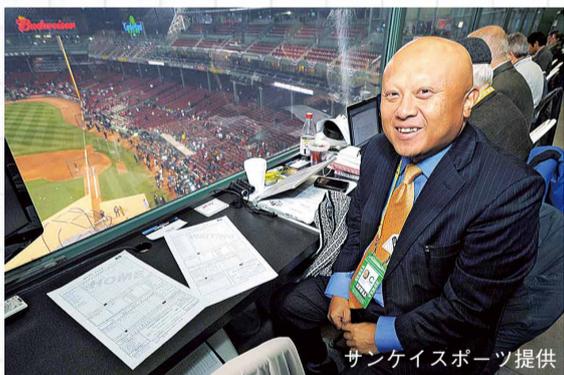
異なる。異常気象などに起因する紛争や貧困、災害などのリスクも全人類が平等に負っている訳ではない」と経済的、倫理的な側面を語った。そして、「環境問題には倫理や政治、経済的な問題なども複雑に絡む。数値で事象を捉える自然科学だけでは解決できず、人間を学問対象としてきた人文学の存在は必要不可欠だ。これからは学際的な分野を超えた協力がますます重要になってくる」と人文学の重要性を訴え、大学での学びを大切にして欲しいと学生たちにエールを贈った。

メジャーリーグから学ぶ

指導者の資質



国学院大学卒業生（院友）で、産経新聞社サンケイスポーツ営業局長の田代学さん（平3卒・99期法）は米大リーグ担当キャップとして13年間、歴代の名監督たちを取材してきた。13年の取材で見た日米の指導者の采配やチームマネジメントの違い、印象的なエピソードや女性の登用について田代さんに聞いた。



サンケイスポーツ提供

ワールドシリーズ公式記録員としての一コマ

「大リーグを取材したい」憧れの記者に

——スポーツ紙の記者を目指したきっかけは

子どもの時から大リーグなど米国のスポーツが好きだった。初めて留学したのは大学4年生の時だ。アルバイトで貯めたお金で、1年間休学して米国ピッツバーグ（ペンシルベニア州）の大学に語学留学をした。ピッツバーグはスポーツが盛んな都市で、野球観戦などに夢中になった。

記者になって大リーグの取材をしたいという夢はずっと持ち続けていた。幸運にもサンケイスポーツから内定をもらい、平成3（1991）年に入社。当時は野茂英雄・元投手が大リーグに行く前だったが、面接では大リーグ特集のアイデアばかり話していた。今振り返ると、よく採用されたなと思う。

——入社後はどんなキャリアを積んだか

新聞記者の振り出しは、地方支局に配属されることになった。私は埼玉県の浦和支局に半年ほど在籍し、その後、東京本社でプロ野球担当になった。最初の担当はヤクルトスワローズで、「ID野球」で知られる故野村克也監督が

2度目の留学を決意した他社のスクープ

——記者として脂がのった30歳で休職し、再び米国に留学。きっかけは

英語力不足を痛感した出来事がきっかけ。当時、私はヤクルトから読売ジャイアンツ（巨人）に移籍したジャック・ハウエル選手と家族ぐるみの付き合いをして親しくしていた。ところがある日、「ハウエル選手が巨人を退団する」という特ダネを他社に出し抜かれてしまった。

実は以前から、ハウエル選手は私に退団を決意する出来事についてそれとなく話し、ヒントを教えてくれようとしていた。しかし私の英語力では微妙なニュアンスが理解できなかった。このスクープはショックだった。これが2度目の留学を決めた理由だ。1年

チームを率いていた時だった。初めてヤクルト担当になった平成4（1992）年にヤクルトがリーグ優勝、5年には日本一になった。連日、サンスポの紙面の2・3ページをヤクルトに関する記事で作っていた。新人だったのだからなかなか書けなかったのだが、めったにない経験ができて本当に恵まれていたと思う。

——オハイオ大学での専攻は。その後の仕事にどう役立っているか

ジャーナリズムを専攻する予定だったが、入学時に教員からの助言で「インターパーソナルコミュニケーション（対人コミュニケーションの心理学）」を専攻した。このことは、大リーグで取材する時にとても役立った。

また、米国で生活したことで、差別的な扱いをされた時や反論する時などにはつきり主張できるようになった。日本だとあんなあで進むことも、米国ではイエスとノーを明確に示さないと変わらない。

# 名選手だけが名監督にあらず

院友・産経新聞社サンケイスポーツ営業局長 田代学さんに聞く

ドアが開いていれば、采配への疑問も聞ける

——平成12(2000)年のシドニー五輪取材を経て、13年に大リーグ担当記者として渡米。以来、名だたる指導者を取材しているが、日米で大きく違う点は何か  
一番驚いたのが、監督が選手を目線に立つこと。今は変わってきているが、当時の日本の球界では、選手は監督に

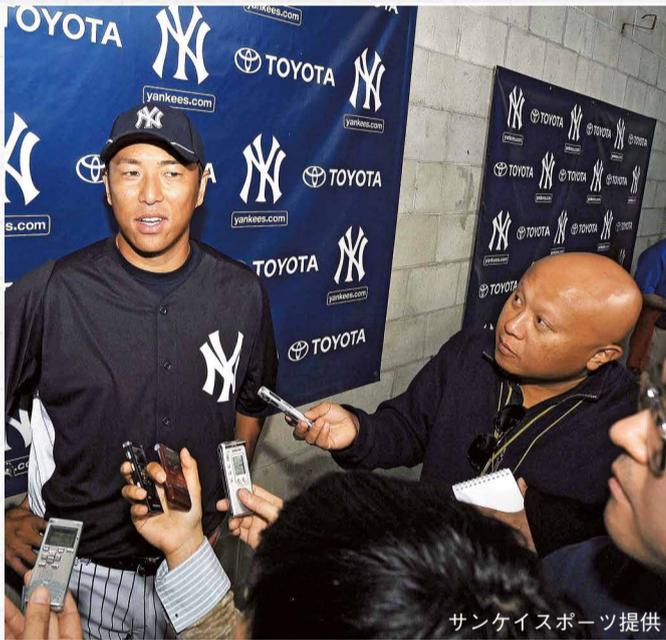
## 「多国籍軍」のメジャーでは傾聴が大切

——日米では監督像がかなり違うということがわかる。大リーグでの取材で印象的なエピソードは  
有名なエピソードだが、松井秀喜選手(平成25年限りで引退)がニューヨーク・ヤンキースに移籍した1年目に、当時のジョー・トリ監督から休養日を告げられたことがあった。

大リーグでは定期的に休養日を与えられる上に、日本では監督の起用法に従うのが当たり前前の時代。ワールドシリーズ制覇に4度導いた名將からの指示を一度は受け入れた松井選手だったが、実は巨人時代から連続試合出場記録を継続中だった。

松井選手は周囲の助言もあり、連続試合出場にこだわってきた理由などを説明。トリ監督は「それは素晴らしい記録だ、休まなくていい」と方針を撤回して、先発出場させた。日本での感覚もあり、当初は松井選手も記録を諦めたが、しっかり話し合ったことでトリ監督に記録の重要

が、その名の通りマネジメン  
ト力が求められる。国籍や文化など多様なバックグラウンドがある選手たちで構成されるチームなので、命令を出すだけではやっていけない。大リーグの監督は個々の選手に合わせて説明の方法や指導、指示といったアプローチを変えながら、チームをまとめていく技術を持っていて、これが日本の監督と大きく異なる点だと思っている。



黒田博樹・元投手を取材中の田代さん

こうした取材活動の積み重ねが、BBWA理事やワールドシリーズの公式記録員の指名につながったと思う。渡米初日にスキンヘッドにしたのも顔を覚えてもらうには良かった。私の名前の読みは「学」だが外国人にも呼びやすい「ガク」で通じた。

一方、米国ではメジャーリーガーになれなかった選手も野球技術の知見があれば監督になっている。ロサンゼルス・エンゼルス、ジョー・マドン氏はメジャーリーガーとしての経験はないのだが、マイナーリーグでコーチとして実績を積み、タンパベイ・レイズ監督時代(2006〜14年)はアメリカン・リーグ優勝に導き、シカゴ・カブス監督時代(2015〜19年)には世界

——女性登用は進んでいるか  
チームの要職やトレーナーに女性を登用するケースも増えてきている。今は選手としての経験がなくても、データ

——最後に国学院大学の学生にメッセージを  
私が在学していた時と比べ、スポーツの指導者を育成する健康体育学科を擁する人間開発学部ができた。野球や駅伝、柔道などのスポーツも強くなって誇りに思う。また、留学制度も変わり海外に挑戦するチャンスは広がっている。学生の皆さんもぜひ海外留学にチャレンジして、多様な価値観を身に付けてほしい。そう願っている。

たしろ・まなぶ 昭和42年生まれ、東京都出身。国学院大学法学部法律学科卒。産経新聞社サンケイスポーツ営業局長。本学卒業後、同紙でプロ野球、長野五輪、シドニー五輪などを担当。平成13年から26年まで大リーグ担当キャップ。編集局次長を経て現職。日本人記者として初めて全米野球記者協会(BBWA)理事、ワールドシリーズ公式記録員を務めた。

メジャーリーグ メジャーリーグベースボール(MLB)。大リーグとも呼ばれる。世界最高峰のプロ野球リーグで、米国、カナダの全30球団で編成される。ナショナル・リーグとアメリカン・リーグで構成され、各リーグの優勝チームがワールドシリーズ(WS)で対戦しワールドチャンピオンを決する。多国籍な選手編成と実力の高さから、WS優勝チームは実質世界一と目される。

本学HPでは本学スポーツ部会指導者の取材記事も掲載しています

「陸上部OBからコーチへ。躍進を遂げるチームを支える陸上競技部コーチが語る日常と仕事」  
陸上競技部コーチ 山口祥太



「日々の積み重ねがチームを強くする 国学院“らしさ”で関東大学ラグビー1部昇格目指す」  
ラグビーフットボール部監督 伊藤護





# 交換留学生修了式・送別会

## 経験と交流を糧に活躍を誓う

3月に3年ぶりに各国から来日した交換留学生・科目等履修生9人が留学期間を終え、7月22日に渋谷キャンパスでプログラム修了式・送別会が開催された。

当日は交流を重ねた在学学生、教職員ら約50人も参加。はじめに、証書授与が行われ、岩瀬由佳国際交流推進部長(文学部教授)から留学生一人一人に留学プログラムの修了証が授与され、会場から大きな拍手が贈られた。続いて、留学生たちがあいさつし、「コロナ禍で滞在期間は短くなったが、やっと日本に来て直接、文化や言葉を学べた。学生、教職員の皆さんと出会えたことは忘れられない思い出になる」、「来日して過ごす留学でしか経験できなかったことがたくさんあった。国学院大学の学生と友人になれ、共に語学の勉強をしたり遊んだりして、素晴らしい時間を過ごせた」と留学生生活を振り返ると、会場からはひと際大きな拍手が贈られた。

懇親の時間では、交換留学生の修了証に学生らが寄せ書きを行う様子や記念写真を撮りながら滞り期間中の思い出話に花を咲かせる様子などが見受けられた。最後は交換留学生の代表が音頭を取り、全員で三本締め。参加者たちは別れを惜しみながらも、お互いの活躍を誓い会場を後にした。



参加証書授与

修了証を手にする留学生たちと岩瀬教授



学生、教職員らが修了証に惜別のメッセージを寄せた

## インフォダイジェスト

…在学生 …保護者 …卒業生 …一般 …受験生  
 内容 日にち 時間 場所 対象 定員 料金 申し込み 問い合わせ

### 大学からのお知らせ

#### 令和4年7～8月の大雨で被害に遭われた皆さまへ



7月14日から大雨ならびに8月3日から大雨により災害救助法が適用された地域に主たる家計支持者が居住し、家計の急変で今後の学業生活に支障をきたすおそれのある学生は、保証人(保護者等)と相談のうえ下記の大学各窓口までご相談ください。適用対象地域は本学HPや内閣府防災HPで確認してください。

- 問▶学生生活課 (☎03・5466・0145)
- ▶たまプラーザ事務課 (☎045・904・7700)
- ▶大学院事務課 (☎03・5466・0142)

#### 国学院大学法学会 学生懸賞論文を募集



法学部生を対象に法律学・政治学に関するテーマで懸賞論文を募集します。優秀な論文は表彰を行い「懸賞論文入選集」に掲載します。併せて副賞(最優秀賞:図書カード10万円分、優秀賞:同5万円分、佳作:同3万円分)が贈られます。

申 令和5年1月23日(月)15時までに論文(A4サイズ40字×30行の横書き。脚注含め10～40枚)と受付票、論文概要をWord形式で作成し、法学会懸賞論文窓口にてメールで提出。



### キャリアサポート



※詳細確認・申し込みはK-SMAPY IIから行ってください

#### 企業セミナー (WEB開催)

各業界のリーディングカンパニーの採用担当者が、業界や企業の説明をします。この機会に志望する企業や業界への理解を深めましょう。志望業界が定まっていない人は、さまざまな企業の話を聞いて興味・関心の幅を広げていきましょう。

日 10月11日(火)～11月30日(水) ※終了日は変更の場合あり

対 1～3年生  
 問 キャリアサポート課 (☎03・5466・0151)

※詳細は本学HP(QRコード)で確認を

#### 法学部懸賞論文窓口

(☐law-kensyo@kokugakuin.ac.jp)

#### 第6回渋谷区長への施策提言を募集します



本学では渋谷区と連携し、学生ならではの施策提言を行っています。6回目となる今回のテーマは「①選挙の投票率向上策」「②サイレントマジョリティ(声なき大多数)の意見を聞くための方策」です。学生の皆さんから直接、長谷部健区長へ提言を行い、ご意見をいただきます。奮ってご応募ください



### イベント



#### 第7回 地域交流スポーツフェスティバル



日頃気になる健康指標、楽しみながら測定してみませんか? 本イベントでは体力測定、骨密度測定、体組成測定などを無償で体験することができるほか、体験する機会の少ないスポーツや未就学児対象のアスレチックスペースなど、体を動かすコーナーも充

い。詳細は本学HP(QRコード)で確認を。

【発表】10月26日(水)にパワーポイントを用いた10分程度のプレゼンテーション。応募多数の場合は選考を行う可能性があります

【表彰】区長賞、学長賞(各賞金5万円)、その他表彰、参加賞

対 本学の学部生、大学院生

日 10月21日(金)までにエクステンション事業課へ代表者氏名、学部・学科、連絡先をメールで送信

問 エクステンション事業課

(☎03・5466・0792、

☐jigyoku@kokugakuin.ac.jp)

実しています。お子様から高齢の方まで幅広い年代の方に楽しみながら「見える健康」を提供します!

日 10月23日(日)

時 10時～15時

場 たまプラーザキャンパス

申 詳細は本学HP(QRコード)で確認を

問 人間開発学部地域ヘルスプロモーションセンター

(☐kchpc@kokugakuin.ac.jp)



### 新型コロナ関連のお知らせ



#### 感染症予防/登校時の留意事項

キャンパス内での集団感染を防ぐため、「基本的な感染症対策」や「対面授業など登校時の具体的な留意事項」などを心がけてください。

#### ●基本的な感染症対策

- ◇マスクの着用と咳エチケットの徹底
- ◇手洗いや手指消毒の徹底
- ◇3密(密閉・密接・密集)を避ける取り組みを
- ◇換気(窓や扉の開放またはエアコン作動により)
- ◇ワクチン接種

#### ●感染リスクが高まる場面に注意

- ◇飲酒を伴う懇親会や大人数での飲食
- ◇マスクなしでの会話
- ◇休憩・移動時の気の緩み(教室移動・更衣室など)

#### ●対面授業など登校時の具体的な留意事項

- ◇毎朝検温をし、「検温表」に記載・持参を

- ◇食事の際は個食、黙食の心がけを
- ◇体がだるい、熱がある、喉に違和感があるなど、いつもと体調が異なる時は登校を控え(登校後は帰宅し)、医療機関受診を
- ◇ワクチン関連の欠席(接種日・副反応)は、K-SMAPY IIのQ & Aで、担当教員へ連絡を

#### 陽性/濃厚接触の場合は報告を

新型コロナウイルス感染症に陽性/濃厚接触となった場合は以下の報告フォームに入力してください。必要に応じ保健室から電話で詳細を確認します。

[本学HP]▷[在学生・保護者]▷[学生生活支援]▷[保健室]▷[登校停止感染症の手続き]▷[新型コロナウイルス感染・濃厚接触者等報告フォーム]

# 柔道部 各大会で好成績 10選手が体重別 全国大会へ

国学院大学柔道部が7月から9月の各大会で好成績を収める活躍を見せた。

7月10日に東京武道館で東京都ジュニア柔道体重別選手権大会が開催され、男子73kg級で阿久津友春選手(法2)が優勝、同60kg級で宮部真臣選手(観まち1)、同66kg級で井桁拓海選手(経2)と羽田野啓太選手(健体2)がそれぞれ3位となった。4選手は9月10、11日に埼玉県立武道館で行われた全日本ジュニア柔道体重別選手権大会に出

場し、羽田野選手が準優勝に輝き、阿久津選手と井桁選手はベスト8、宮部選手はベスト16となった。

9月4日には、男子41回・女子38回東京学生柔道体重別選手権が東京武道館で開催され、男子60kg級で後藤颯太選手(健体1)が優勝し、同部は二階級を制覇。同66kg級で藤岡歩武選手(健体2)が準優勝、同81kg級で騰川雄一朗選手(法3)が3位と4選手が表彰台上った。この大会は10月に日本武



左から後藤選手、田中選手、藤岡選手、騰川選手

道館で行われる全日本学生柔道体重別選手権大会の予選を兼ねており、入賞した4選手のほかに男子60kg級で宮部選手、73kg級で川田武史選手(経4)、81kg級で岩下幹人選手(健体2)、90kg級で松本匡

平選手(法2)と寺島悠太選手(健体3)の5選手が出場権を獲得。昨年の全国大会90kg級優勝の押領司龍星選手(経営4)を加えた10人が学生体重別個人戦で日本一に挑む。



元全日本選手のペアを破る活躍を見せた黒須選手(左)、下田選手(右)

ソフトテニス部提供

## ソフトテニス部 東日本選手権 下田選手(史4)・黒須選手(神文2)ペアが3位

第77回東日本ソフトテニス選手権が7月16、17日に南部総合公園テニスコート(長野県安曇野市)などで開催された。国学院大学ソフトテニス部は男女とも6ペアが出場し、男子の下田好輝選手(史4)・黒須栞暉選手(神文2)ペアが3位となる好成績を収めた。

この大会はダブルスで行われ、社会人、高校生も含めた男子334ペア、女子181ペアが出場した。下田選手・黒須選手ペアは初日のトーナメントを勝ち進むと、2日目には4回戦で強豪の北海道高校生チャンピオンのペアを撃破。続く5回戦で社会人ペア、6回戦で元全日本チ

ームペアにも優位な試合運びで快勝を収めた。7回戦では社会人チームに所属する院友ペアと対戦。ファイナルゲームまでもつれる大激戦を制し、準決勝進出を決めた。

準決勝では、全日本チームペアとの対戦に臨み、実力に勝る相手に奮戦。一進一退の攻防を繰り広げた。最後は惜しくも敗れたものの、下田選手・黒須選手ペアは並みいる強豪を抑え、見事に3位入賞となった。この結果から、同ペアは10月に香川県高松市で開催される全日本選手権大会(天皇杯)への出場権を獲得した。

「出合い」の手当です。ここで「出合い」とは、受け入れる(受容)ということだけでなく、そこから更に「尊敬、信頼、友情など、新しい何かが生まれること」(創造)です。事例を一つ挙げます。私は毎年、6月には某作業所に学生を連れて田植えのボランティアに行っていました。主に田植えの邪魔



「自己否定の「損在」から、自己肯定の「尊在」へ」の手立ての要求です。自己向上に向けての「尊在」感無くして、「学び」の意欲はあり得ません。とりわけコロナ禍で引きこもり状態だった若者たちは、存在感を失う「損在」状態に置かれていました。彼らは今こそ、心の「手当て」を求めているのです。

この時、所長はM子と出会ったのです。

親御さんも、こうした子どもたちとの「真の」出合いが求められます。そのためには逆説的な言い回しになりますが、親で頭が一杯にならないことです。言い換えれば、親を熱演する大根役者にならないことです。この対処法を、私は「コップの原理」と呼んでいます。

近くて遠い？ 遠くて近い？ そんな親の気持ちや子どもの気持ちを一緒に考えませんか？ 新富名誉教授による子育てエッセーを隔月でお届けしています。読者の感想や新富名誉教授への質問をお待ちしています。

### 「尊在感」づくり(1) 『出合いの心』『コップの原理』



名誉教授 新富 康央

しんとみ・やすひさ  
学校法人国学院大学特別参事。人間開発学部初代学部長。専門は教育社会学、人間発達学。新しい時代の子育て論には定評。

国、文科省が今日問題にしているのは、子どもたちの「閉じた個」「自分への自信の喪失」です。私はそれを、「損在感」と総称しています。それは、子どもたちの側から言えば、かつての「指示」ではなく、「支持」への要求とも言えます。

「自己否定の「損在」から、自己肯定の「尊在」へ」の手立ての要求です。自己向上に向けての「尊在」感無くして、「学び」の意欲はあり得ません。とりわけコロナ禍で引きこもり状態だった若者たちは、存在感を失う「損在」状態に置かれていました。彼らは今こそ、心の「手当て」を求めているのです。

「これは優しいとかいう個人の性格の問題ではない。これは、役立つか否かと物でしか見ない健常者が忘れていた、宇宙を包み込むような心の広さではないだろうか。いつも『ありがとう』と言わせてくれる。」

移す時、私たちはこぼれないように、水を8分目にして2分ほど空けておきます。「どうして」と叱責したい親心を2分ほど空けることで、相手(子ども)のコップも、対峙する反抗心を2分ほど空けて、少しは聞いてやろうかな、という気持ちになつてくれます。

仏教界には「出合いとは、空なり」という言葉があるそうです。相手と対峙する際、心を空にして無の境地になることで、その全てを受け入れることができるというのです。しかし、私たちは仏様と違って、心を空にすることはできません。そこで、心を2分だけでも空けて、秋の夜長に子どもに寄り添って対話してみてもどうでしょう。

親御さんも、こうした子どもたちとの「真の」出合いが求められます。そのためには逆説的な言い回しになりますが、親で頭が一杯にならないことです。言い換えれば、親を熱演する大根役者にならないことです。この対処法を、私は「コップの原理」と呼んでいます。

「自己否定の「損在」から、自己肯定の「尊在」へ」の手立ての要求です。自己向上に向けての「尊在」感無くして、「学び」の意欲はあり得ません。とりわけコロナ禍で引きこもり状態だった若者たちは、存在感を失う「損在」状態に置かれていました。彼らは今こそ、心の「手当て」を求めているのです。

「これは優しいとかいう個人の性格の問題ではない。これは、役立つか否かと物でしか見ない健常者が忘れていた、宇宙を包み込むような心の広さではないだろうか。いつも『ありがとう』と言わせてくれる。」

移す時、私たちはこぼれないように、水を8分目にして2分ほど空けておきます。「どうして」と叱責したい親心を2分ほど空けることで、相手(子ども)のコップも、対峙する反抗心を2分ほど空けて、少しは聞いてやろうかな、という気持ちになつてくれます。

仏教界には「出合いとは、空なり」という言葉があるそうです。相手と対峙する際、心を空にして無の境地になることで、その全てを受け入れることができるというのです。しかし、私たちは仏様と違って、心を空にすることはできません。そこで、心を2分だけでも空けて、秋の夜長に子どもに寄り添って対話してみてもどうでしょう。

親御さんも、こうした子どもたちとの「真の」出合いが求められます。そのためには逆説的な言い回しになりますが、親で頭が一杯にならないことです。言い換えれば、親を熱演する大根役者にならないことです。この対処法を、私は「コップの原理」と呼んでいます。

「自己否定の「損在」から、自己肯定の「尊在」へ」の手立ての要求です。自己向上に向けての「尊在」感無くして、「学び」の意欲はあり得ません。とりわけコロナ禍で引きこもり状態だった若者たちは、存在感を失う「損在」状態に置かれていました。彼らは今こそ、心の「手当て」を求めているのです。

「これは優しいとかいう個人の性格の問題ではない。これは、役立つか否かと物でしか見ない健常者が忘れていた、宇宙を包み込むような心の広さではないだろうか。いつも『ありがとう』と言わせてくれる。」

移す時、私たちはこぼれないように、水を8分目にして2分ほど空けておきます。「どうして」と叱責したい親心を2分ほど空けることで、相手(子ども)のコップも、対峙する反抗心を2分ほど空けて、少しは聞いてやろうかな、という気持ちになつてくれます。

仏教界には「出合いとは、空なり」という言葉があるそうです。相手と対峙する際、心を空にして無の境地になることで、その全てを受け入れることができるというのです。しかし、私たちは仏様と違って、心を空にすることはできません。そこで、心を2分だけでも空けて、秋の夜長に子どもに寄り添って対話してみてもどうでしょう。

親御さんも、こうした子どもたちとの「真の」出合いが求められます。そのためには逆説的な言い回しになりますが、親で頭が一杯にならないことです。言い換えれば、親を熱演する大根役者にならないことです。この対処法を、私は「コップの原理」と呼んでいます。

K:DNA——創立140年目を迎えた国学院大学の**遺伝子**…個人・個性を尊重する校風 若いエネルギーが未来を変える

## 硬式野球部

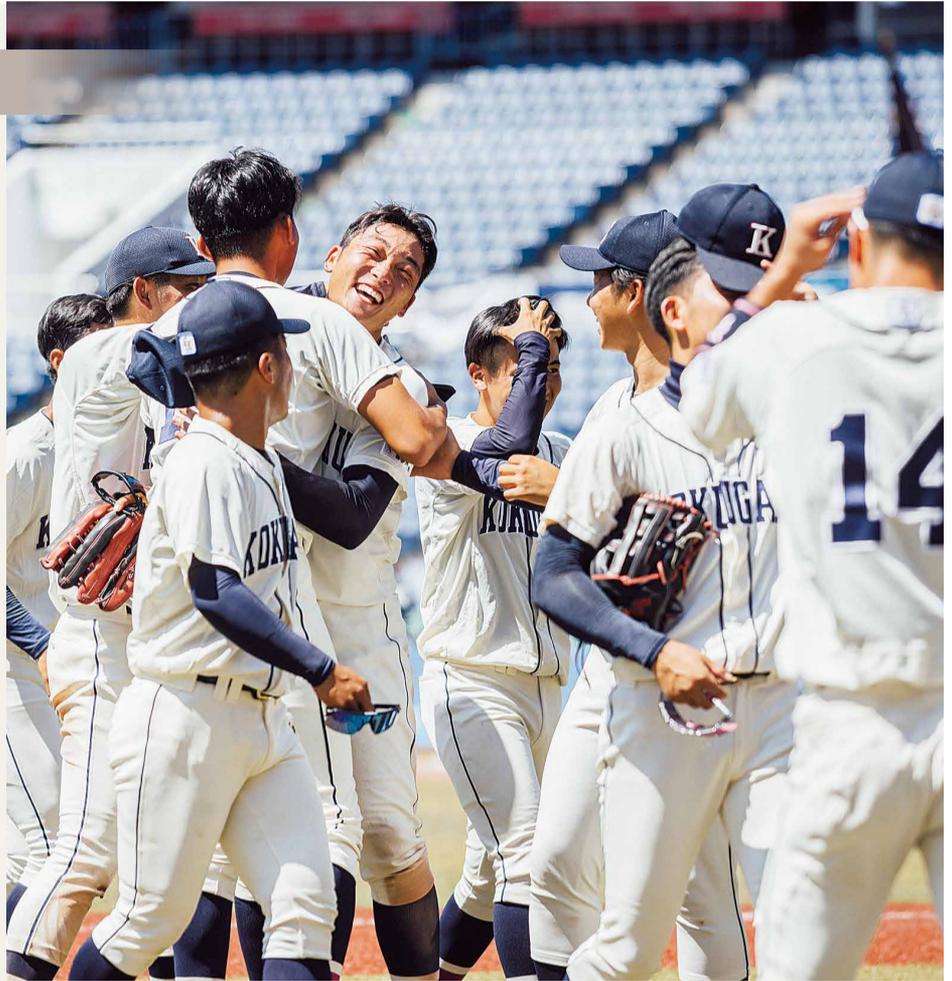
# 秋季リーグ 福島県で開幕戦 2シーズンぶりの 優勝狙う

国学院大学硬式野球部が所属する東都大学野球1部の秋季リーグが開幕を迎えた。

開幕戦は春季リーグに続く地方開催として9月3日から5日に福島県で行われた。3日に県営あづま球場（福島市）で行われた青山学院大学との1回戦に臨んだ同部は、一回表に先頭打者の山本大輔選手（健体4）が右中間への二塁打で出塁、2番の鈴木智也選手（健体3）が犠打で送り、1死一・三塁とする。4番、青木寿修選手（経ネ4）の犠飛打で山本選手が生還し1-0と先制し、そのまま初戦を制した。先発の武内夏暉投手（健体3）は九回を完投し、相手打線を4安打に抑える好投を見せた。翌日からはヨーク開成山スタジアム（郡山市）で行われ、4日の2回戦は1-3、5日の3回戦は1-2と惜しくも敗れた。

第2週にはZOZOマリスタジアム（千葉市）に舞台を移し、中央

大学と対戦。9月10日の1回戦は六回裏に2点を奪われ先行されたものの、八回表に1死二塁から田中大貴選手（健体2）と仲村光陽選手（健体2）が適時打を打ち2-2と並ぶ。その後、試合は無死一・二塁から行うタイブレーク制の延長戦に突入。十回表、1死一・二塁から柳館憲吾選手（法2）が会心の3ラン本塁打で5-2と突き放すと、十回裏の相手打線を楠茂将太投手（法4）が抑え勝利した。翌11日の2回戦では、2-0とリードし迎えた七回裏、山本選手や柳館選手の安打で1死二・三塁とすると、田中選手の左適時打や青木選手の犠飛打で2点を加え4-0とし二連勝。第2週終了時点で同部は3勝2敗、勝点1で2位に浮上。チームは優勝奪還を目指し、中盤戦となる第3週の駒沢大学戦、第4週の日本大学戦に臨む。



中央大1回戦で本塁打の柳館選手(中央)と喜ぶ部員たち



要所で得点に貢献の田中選手



初戦で好投した武内投手

東都大学野球1部秋季リーグ順位（9月11日時点）

順位	大学名	勝数	負数	勝率	勝点
1	青山学院大学	4	1	0.800	2
2	国学院大学	3	2	0.600	1
2	日本大学	3	2	0.600	1
4	亜細亜大学	2	3	0.400	1
4	中央大学	2	3	0.400	1
6	駒沢大学	1	4	0.200	0

## 陸上競技部

# 中西選手 日本インカレ準優勝 三大駅伝前に好成績

熾烈な2位争いを制した中西選手  
(月刊陸上競技提供)



天皇賜盃第91回日本学生陸上競技対校選手権（日本インカレ）が9月9日から11日に、たけびしスタジアム京都（京都市）で開催され、国学院大学陸上競技部からは男子5000mに中西大翔選手（健体4）、山本歩夢選手（健体2）が出場し、中西選手が準優勝となった。

同種目には全国から標準記録を突破した27人が出場。中西選手はスタートから留学生選手に続き日本人選手の先頭を走る積極的なレース運びをみせ、山本選手も集団の中ほどから上位を狙う。気温が30度を超える厳しいコンディションのなか、レースは1000mを2分44秒、2000mを5分32秒と速いペースで進む。徐々に遅れる選手も出始めるなか、中西選手と集団前方に位置を上げた山本選手は3000mを8分25秒と先頭集団で通過。直後に、東京農業大学の高槻芳照選手が一気にペースを上げ、揺さぶりを

かけると集団は留学生選手2人を含む5人に絞られた。中西選手はこのペースアップにも冷静に対応し、トップ争いを繰り広げる。青山学院大学の近藤幸太郎選手が残り1000m手前からスパートで抜け出すと、中西選手は山梨学院大学のジェームス・ムトゥク選手と2位を争い一騎打ちとなる。中西選手は残り100mまで先行されるが、最後の直線で強烈なスパート。ムトゥク選手を逆転し振り切ると13分53秒40で準優勝となった。山本選手は14分24秒24で15位、優勝は青山学院大学の近藤選手で13分50秒37だった。

同部主将の中西選手は3月の日本学生ハーフマラソンで準優勝、7月には5000mで13分38秒45の本学記録を樹立するなど各大会で活躍しており、10月から始まる学生三大駅伝を前に、チームを鼓舞する結果となった。

**出雲駅伝〈10月10日（月・祝）〉応援に関するお願い**

治道で応援される際は、大会主催者が求める感染防止対策へのご協力をお願いいたします。